

ORACLE®

株主通信 Vol.14

第22期中間期（2006年6月1日から2006年11月30日まで）

TOPICS

1

「Oracle OpenWorld 2006」開催

2006年10月22日～26日の5日間、サンフランシスコ モスコニーセンターにおいて「Oracle OpenWorld 2006」が開催されました。



ラリー・エリソンをはじめとするオラクル・コーポレーション経営陣による基調講演に加えて、1,600を越えるセッション、420ものパートナーブースと多数のオラクル製品の展示ブースがあり、会期を通じて40,000人以上が参加しました。企業向けソフトウェアのトップ企業を目指すオラクルのテクノロジーは、全世界で注目を浴びています。

TOPICS

2

「Oracle GRID Center」開設

2006年11月7日、日本オラクルは「グリッド戦略発表会」において、パートナー14社と協業して「Oracle GRID Center(オラクル・グリッド・センター)」を開設することを発表しました。

オラクルは、企業全体のIT基盤を最適化するためのグリッド・コンピューティングを推進しており「Oracle Database 10g」においてグリッド技術を実現しています。今回開設した「Oracle GRID Center」は、世界最大級のグリッド環境を備え、オラクルの持つ最新のグリッド技術とパートナー各社の最新のハードウェアおよびソリューションを組み合わせることで、お客様へ最適な構成をご提案することを可能にします。

TOPICS

3

「Oracle Summit 2006」開催

2006年11月、顧客企業およびパートナー企業の経営層を対象に、ビジネスとITの連携や、効率的なリスクマネジメントによるITガバナンスの強化等を実現する、オラクルの最新のテクノロジー製品群とソリューションを紹介するカンファレンス、「Oracle Summit 2006」が東京および大阪にて開催されました。

顧客企業の競争力を強化するIT基盤構築への需要をベースとして、最近の内部統制やセキュリティへの関心の高まりもあり、基調講演ならびに各セッションは、ほぼすべて満席となり、大盛況のうちに終了いたしました。

～セブン-イレブン・ジャパンの事例～



オラクルのデータベースを全面採用した店舗システムの全国11,454店への展開を完了

基幹データウェアハウスと店舗システムが「Oracle Database 10g」で稼動

全 国各地にあるコンビニエンスストアでは、その立地条件によって売れ筋製品が大きく異なっています。競争激化のコンビニエンス業界において、セブン-イレブンは常に競争優位を保ちつづけるために、個店から全社規模にいたる各々の業務でPDCA(Plan、Do、Check、Action)サイクルを進化させ続けています。セブン-イレブンでは情報活用がまさに基幹業務の一環であり、それを支援する情報システムには従来の基幹システムと同等の安定性と可用性が求められています。

こ のたび、日本オラクルが培ってきた第4次システムからの本部システムにおける実績と「Oracle Database 10g」の高い処理能力に加え、オラクルの高可用性ソリューション「Oracle Real Application Clusters」の

安定性・高信頼性が評価され、第6次総合情報システムに採用されました。

新 システムにおいて、セブン-イレブンは、15TB(テラバイト)におよぶ「Oracle Database 10g」で統合データウェアハウスを刷新し、新たに各店舗の立地条件、周辺の施設データを加えることで、立地別、施設別の販売動向分析を可能にしました。また、店舗では、従業員が携帯型の発注端末によって、「Oracle Database 10g」が搭載された店舗内「ストア・コンピュータ」に蓄積されたデータを、無線LANを介して閲覧できますが、新システムでは、販売データ、商品情報、天気予報、地域の催事情報を効率よく手元で閲覧することが可能となりました。これにより、天候や地域イベントなどに応じたきめの細かい発注を支援するとともに、「仮説、発注、検証」のPDCAサイクルによる販売モデルをさらに強化しています。

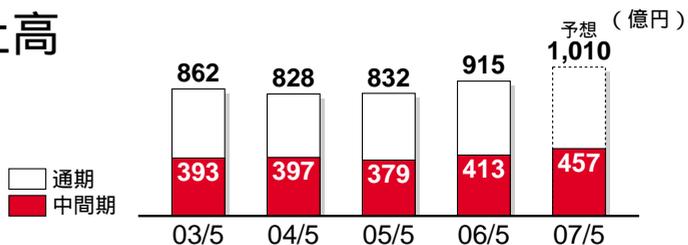
本 システムでは「Oracle Database 10g」をデータ基盤に据え、本部システムでは「Oracle Partitioning」の活用による大量データの運用性向上および性能向上をはかっています。さらに「Oracle Real Application Clusters」を採用、クラスタリングによる耐障害性を実現することで、高い信頼性を備えています。

(2006/10/31 日本オラクル News Release抜粋)

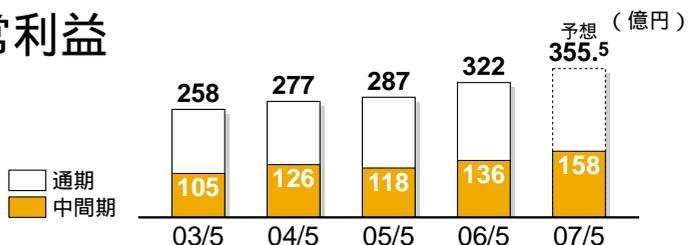
中間決算ハイライト

2006年11月 中間期の業績と2007年5月期の業績見通し

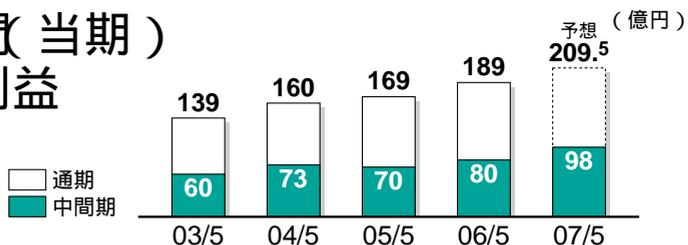
売上高



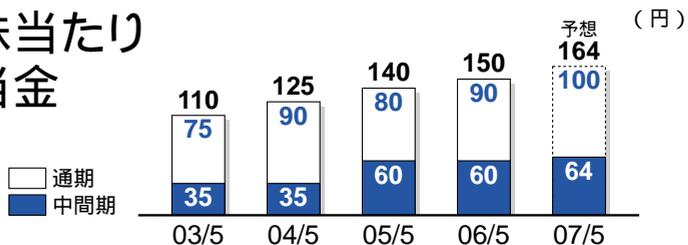
経常利益



中間(当期) 純利益



一株当たり 配当金



すべての事業部門で増収となり、売上高ならびに中間純利益は上半期における過去最高を更新いたしました。

2006年11月中間期実績

売上高

457億円 前期比 ▲10.7%

中間純利益

98億円 前期比 ▲22.1%

当中間期の業績は当初予想を上回る結果となりましたが、2006年7月6日に公表した当初予想どおりの中間配当(一株当たり70円)をお支払した場合、会社法上の分配可能額を超過することが判明いたしましたため、中間配当は一株当たり64円とさせていただきます。

年間の一株当たり配当金は、当初予想から変更なく、引き続き164円とさせていただきます。

営業の概況・見通し

業績

当中間期は、さらなる成長を実現するため、事業組織の専門化による営業力の強化に継続的に取り組むとともに、顧客カバレッジの拡大ならびにパートナービジネスの拡充を図ってまいりました。2006年6月には、日本オラクルインフォメーションシステムズ株式会社(以下OIS)と製品相互供給契約を締結し、企業におけるバックオフィスソリューションからフロントエンドソリューションまでを網羅する強力な業務用アプリケーション製品群による事業展開を開始しました。同年11月には、グリッド戦略パートナー各社と共同で、企業のシステム基盤の最適化を実現する次世代のビジネス・ソリューションの構築・検証を目的とした「Oracle GRID Center(オラクル・グリッド・センター)」を開設しました。また同月には、顧客企業およびパートナー企業の経営層を対象に、オラクルの最新のテクノロジー製品群とソリューションを紹介するカンファレンス、「Oracle Summit 2006」を東京および大阪にて開催しました。

この結果、当中間期の売上高は過去最高の457億85百万円(前年同期比10.7%増)、経常利益は158億9百万円(同15.9%増)、中間純利益は98億22百万円(同22.1%増)となりました。

今後の戦略

当社データベース・テクノロジー部門においては、オプション製品等を含めたデータベース製品の安定的な成長と、戦略製品の一つに位置付け、注力しているフュージョン・ミドルウェア製品の高成長が続くと期待されます。ビジネス・アプリケーション部門は、OISとの連携をさらに強化するなど、引き続き大きな成長を目指す事業展開を進めてまいります。また、これらソフトウェアプロダクトの販売が堅調に推移すると考えられることから、アップデート&プロダクト・サポート部門の成長も持続すると見込まれます。これらの結果、ソフトウェア関連売上は今後も堅調に推移すると想定しております。また、サービス部門でも、旺盛な需要に対応するための体制整備や人員の拡充等を進めており、現在の成長が持続すると見込まれます。

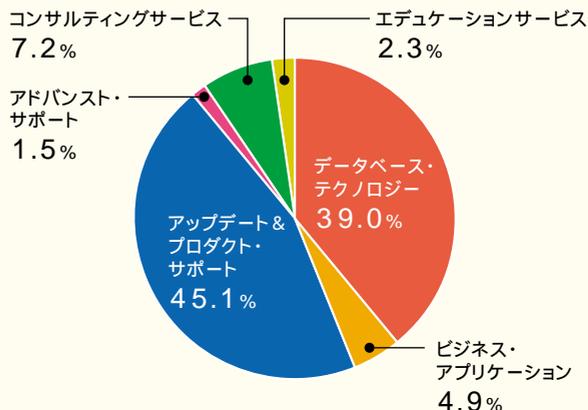
以上により、2007年5月期は売上高1,010億円、(前期比10.3%増)、経常利益355億50百万円(同10.4%増)、当期純利益209億50百万円(同10.3%増)を見込んでおります。

ソフトウェア関連:データベース・テクノロジー、ビジネス・アプリケーション、アップデート&プロダクト・サポート

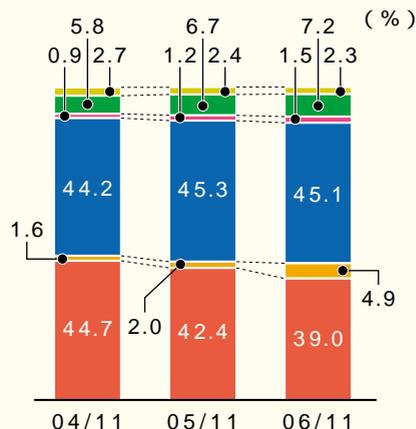
事業部門別概況

2006年11月 中間期の各部門の業績

【 売上の内訳(2006年11月 中間期) 】

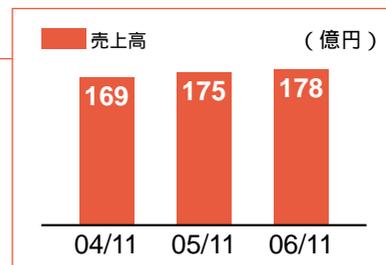


【 売上の内訳推移 】



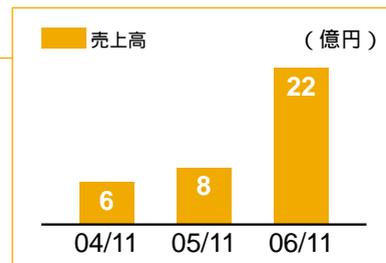
データベース・テクノロジー

データベース製品では安定的なビジネス展開を続けつつ、フュージョン・ミドルウェア製品や、大規模システム向けのオプション製品ならびに運用管理ツール等の製品の販売が拡大しています。特にフュージョン・ミドルウェア製品は会社法や日本版SOX法関連の需要の高まりを受け、専任組織を設置し積極的な営業活動を実施してきたことが奏功して大きな成長を達成し、売上高は前年同期比2.0%増の178億73百万円となりました。



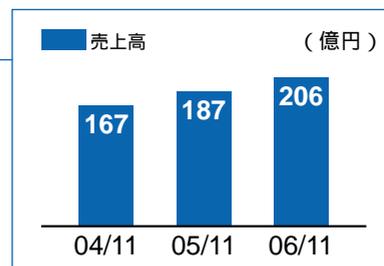
ビジネス・アプリケーション

OISとの製品相互供給契約の整備に伴う相乗効果を早速発揮し、中心となる当社のビジネス・アプリケーション製品の売上が大きく成長していることに加え、新たに加わったOISの製品群の販売も順調に立ち上がったことなどから、売上高は大幅に伸び、前年同期比164.6%増の22億41百万円となりました。



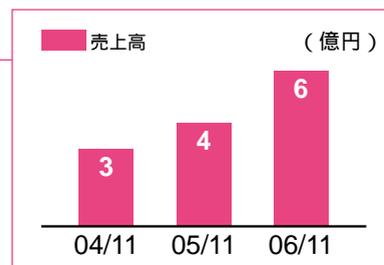
アップデート&プロダクト・サポート

ソフトウェアプロダクトの販売が増加していることに加え、顧客企業の情報インフラの安定稼働に対する要求が引き続き高く、高いサポート契約率および更新率を維持しております。この結果、売上高は前年同期比10.1%増の206億52百万円となりました。



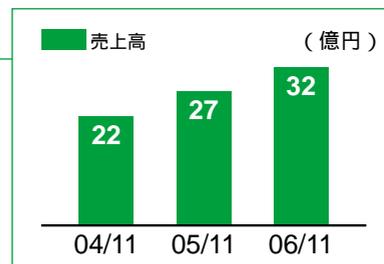
アドバンスト・サポート

2004年5月期よりサービスを開始した「Oracle On Demand」が順調な成長を続けており、またミッション・クリティカルなシステムを運用する顧客にとって必要な、より高いレベルのサポートを提供するサービスである「Advanced Customer Services」の需要も高まっています。この結果、売上高は前年同期比36.6%増の6億76百万円となりました。



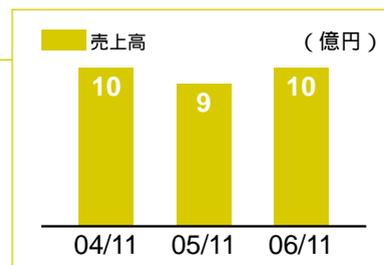
コンサルティングサービス

テクノロジーコンサルティング分野の顧客基幹システムへの新製品導入サービスと、システム安定稼働に向けた技術支援サービスが急速に拡大を続けています。同時に、アプリケーションコンサルティング分野では、大型業務改革プロジェクトが増加しています。また、従来からの大企業向け製品導入サービスに加えて、中堅企業向けの製品導入サービスも堅調に推移しています。これらの結果、売上高は前年同期比18.8%増の32億96百万円となりました。



エデュケーションサービス

ソフトウェアプロダクトの販売が堅調なことに加え、新しい製品やソリューションに対応するための技術者育成に対する旺盛な研修需要が続いていることから、パートナー企業や顧客企業に対する研修サービスの提供が拡大を続けています。これらの結果、売上高は前年同期比7.1%増の10億44百万円となりました。



要約財務諸表

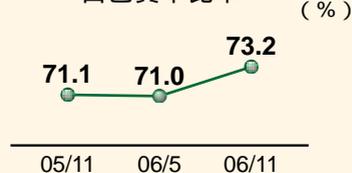
[貸借対照表]

科目	前中間期末(05/11)	当中間期末(06/11)	前期末(06/5)
資産の部			
流動資産	100,922	92,850	98,349
固定資産	5,057	12,619	12,567
有形固定資産	1,096	8,899	8,828
無形固定資産	17	11	13
投資その他の資産	3,943	3,708	3,726
資産合計	105,979	105,469	110,917
負債の部			
流動負債	30,585	28,309	32,203
固定負債	—	—	—
負債合計	30,585	28,309	32,203
純資産の部			
株主資本	75,193	77,041	78,586
資本金	22,131	22,177	22,144
資本剰余金	33,569	33,615	33,582
利益剰余金	24,924	21,252	22,861
自己株式	5,432	4	1
評価・換算差額等	201	118	127
純資産合計	75,394	77,160	78,714
負債・純資産合計	105,979	105,469	110,917

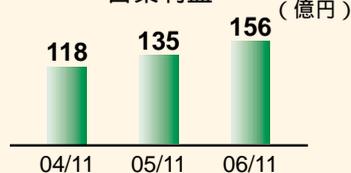
前中間期末の純資産の部は当中間期末の表示区分に組替えて表示しております。

(百万円 / 百万円未満切り捨て)

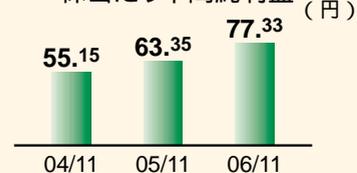
自己資本比率 (%)



営業利益 (億円)



一株当たり中間純利益 (円)



[損益計算書]

科目	前中間期 (05/6~05/11)	当中間期 (06/6~06/11)
売上高	41,375	45,785
売上原価	16,663	18,339
売上総利益	24,712	27,445
販売費及び一般管理費	11,133	11,805
営業利益	13,579	15,639
経常利益	13,644	15,809
税引前中間純利益	13,645	16,716
中間純利益	8,045	9,822

(百万円/百万円未満切り捨て)

[キャッシュ・フロー計算書]

科目	前中間期 (05/6~05/11)	当中間期 (06/6~06/11)
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,974	8,753
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,412	795
財務活動によるキャッシュ・フロー	10,109	11,366
現金及び現金同等物の増減額(減少:)	3,277	3,408
現金及び現金同等物の期首残高	21,883	18,364
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	25,160	14,956

(百万円/百万円未満切り捨て)

[株主資本等変動計算書]

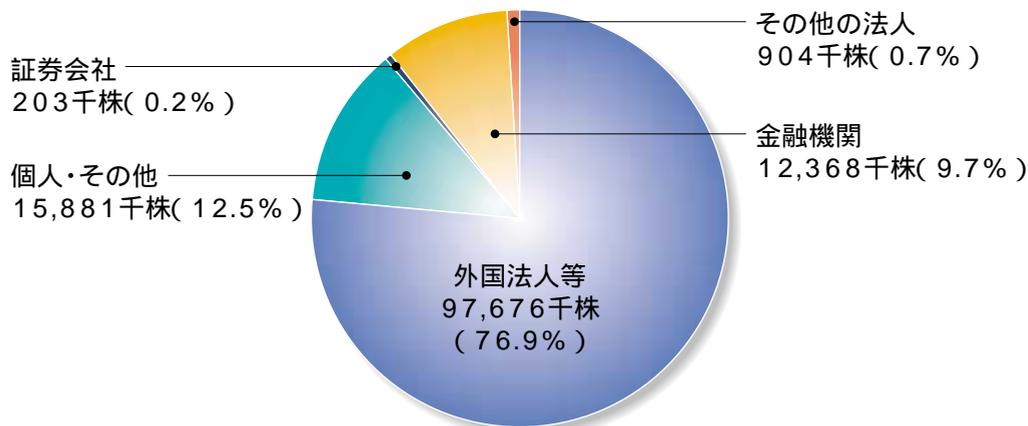
	株主資本									評価・換算差額等 その他 有価証券 評価 差額金	純資産 合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金			自己 株式	株主 資本 合計			
		資本 準備金	その他 資本 剰余金	利益 準備金	その他利益剰余金 特別 償却 準備金	繰越 利益 剰余金					
2006年5月31日 残高	22,144	33,582	—	3,212	34	19,614	22,861	1	78,586	127	78,714
中間会計期間中の変動額											
新株の発行 (新株予約権の行使)	33	33							66		66
剰余金の配当						11,431	11,431		11,431		11,431
特別償却準備金の取崩し					13	13	—		—		—
中間純利益						9,822	9,822		9,822		9,822
自己株式の取得								3	3		3
自己株式の処分			0					0	0		0
株主資本以外の項目の中間 会計期間中の変動額(純額)										8	8
中間会計期間中の変動額合計	33	33	0	—	13	1,595	1,608	2	1,545	8	1,553
2006年11月30日 残高	22,177	33,615	0	3,212	21	18,018	21,252	4	77,041	118	77,160

(百万円/百万円未満切り捨て)

株式の状況 (2006年11月30日現在)

発行可能株式総数	511,584,909 株
発行済株式総数	127,033,571 株
資本金	22,177 百万円
株主数	49,205 名

所有者別状況(2006年11月30日現在)



その他の法人には自己株式を含む

[発行済株式(自己株式を除く)の総数の10分の1以上の株式を有する株主]

株主氏名	持株数(千株)
オラクル・ジャパン・ホールディング・インク	94,967

会社概要

商号 日本オラクル株式会社

所在地 東京都千代田区紀尾井町4番1号
ニューオータニガーデンコート

設立 1985年10月15日

資本金 221億77百万円

代表者 代表取締役社長 新宅 正明

従業員数 1,602名(2006年11月30日現在)

事業内容 ソフトウェアプロダクトの販売及び
当該ソフトウェアプロダクトの利用を
支援する各種サービスの提供

事業所 本社
北海道支社 / 東北支社 / 中部支社 /
関西支社 / 西部支社 / 北陸支店 / 中国・
四国支店 / 沖縄支店 / 用賀オフィス /
豊田オフィス /
トレーニングキャンパス渋谷 /
トレーニングキャンパス大阪

役員

代表取締役社長 新宅 正明

取締役副社長執行役員 東 裕二

取締役常務執行役員 保科 実

取締役常務執行役員 松岡 繁

取締役 デレク・エイチ・ウィリアムズ

取締役 ジョン・エル・ホール

取締役 エリック・アール・ボール

常勤監査役 所 芳正

監査役 中森 真紀子

監査役 野間 自子

株式関係
年間スケジュール
(予定)

2006年12月21日 中間決算発表

2007年2月9日 中間配当金お支払い

3月下旬 第3四半期決算発表

5月31日 事業年度末日

6月下旬 通期決算発表

8月下旬 定時株主総会・期末配当金お支払い

9月下旬 第1四半期決算発表

11月30日 中間配当基準日

株主メモ

事業年度末日	毎年5月31日
配当金受領株主確定日	剰余金の配当 毎年5月31日(中間配当をする場合の配当金受領株主確定日は、11月30日)
定時株主総会	毎年8月下旬
基準日	毎年5月31日 その他必要あるときは予め公告して、設定いたします。
公告の方法	電子公告により、次の当社のホームページに掲載します。 http://www.oracle.co.jp/corp/index.html ただし、事故その他やむを得ない事由により電子公告によることができないときは、日本経済新聞に掲載して行います。

株主名簿管理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

【通話料無料】TEL:0120-232-711(オペレータ対応)

名義書換・配当金などに関するお問い合わせは、上記の電話番号までお願いいたします。

株式関係のお手続用紙のご請求は、下記の三菱UFJ信託銀行株式会社の電話番号及びインターネットでも24時間承っております。

【通話料無料】TEL:0120-244-479(本店証券代行部)/0120-684-479(大阪証券代行部)

<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

同取次所 三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店

転居や住居表示変更による住所変更の場合は、お早めにお取引の証券会社もしくは当社株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行株式会社)にてお届けの住所変更手続きをお願いいたします。

日本オラクル株式会社

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町4番1号

ファイナンス本部 インベスター・リレーションズ部

ホームページアドレス <http://www.oracle.co.jp/corp/index.html>

当社ホームページ(会社概要・投資家向け情報)では決算短信等の財務情報、株主通信のバックナンバー、当社の事業展開や製品・サービスに関する様々な情報を発信しております。ぜひご利用ください。

本株主通信に含まれている業績予想等、歴史的事実以外の記述については、決算資料の発表日において入手可能な情報から判断された一定の前提に基づき日本オラクル株式会社が策定したものであり、実際の業績は様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。



100%再生紙、大豆インキを使用しております。